

南半球便り（その1）：シドニー訪問

1. 1月21日から23日にかけてシドニーに出張してきました。

キャンベラのある首都地域（ACT）ではまず見かけないマスク姿が常態で、宿泊先のホテルに戻るたびにQRコードで身元登録を求められたことが印象的でした。

2. 豪州側関係者

まずハワード元首相を表敬し、意見交換。日本経済、インド太平洋情勢、米国との関係など、話題は多岐にわたりました。11年余にわたる長期政権を担われた大宰相でありながらも、若輩の大使相手に気さくに応じていただき、森羅万象につき縦横に、かつ、極めて明晰に分析されていたことに強く感じ入りました。

旧知の豪州人の計らいで、豪州のビジネス関係者とも、突っ込んだ意見交換をしました。日本企業と連携・協力して新たなフロンティアを開拓していきたいとの強い意欲を感じました。

夜は、紀谷（きや）在シドニー総領事の公邸で、コーツ IOC 東京 2020 調整委員長（豪州オリンピック委員会会長）ご夫妻と夕食を共にしつつ懇談。日本から持参した軽井沢彫のお土産を、ことのほか喜んでいただきました。



コーツ会長へのお土産贈呈

さらに、大学、シンクタンク関係者とも忌憚のないやりとりをしてきました。豪中関係、バイデン政権のインド太平洋政策、日豪関係、日本の内政など、話題は実に広範に及び、2時間では足りないくらいでした。

3. 在留邦人

豪州の在留邦人が10万人を超える中、シドニー近郊には最大の約3万5千人の日本人がおります。日本人会の石川会長（住友商事）、日本商工会議所の毛利会頭（日本製鉄）、日本クラブのコステロ会長から、在留の日本人の方のご活躍ぶりや、子弟の日本語教育問題など、取り組むべき課題についてじっくりとかがいしました。今後大使館として在留邦人の保護業務を進めていく上で大いに参考となりました。

また、航空、銀行、商社、メーカー等、現地で日夜奮闘されている日本企業の方々にご挨拶し、豪州での活動ぶりについて説明を受けました。ビジネス環境整備等のために大使館としてお役に立てることがあれば、「筆頭商務官」である大使を含め、フットワーク良く対応した

と思います。

シドニー駐在の日本のプレスの方々との会合も、大変貴重な機会でした。日豪関係の重要性についての認識を共有し、豪州での日本の存在感、日本での豪州での存在感を如何に高めていくかといった共通の問題意識について率直に意見を交換することができ、心強く感じました。

4. 慰霊

実は、コロナ禍の中で着任後間もなくシドニーを訪問することとした大きな理由の一つは、「慰霊」でした。新任大使として、第二次大戦中、日本海軍の特殊潜航艇によるシドニー湾攻撃で命を落とした豪州艇クッタバル関係者21名を追悼するとともに、特殊潜航艇乗組員6名の御霊を弔いたいと念じていました。豪州艦隊司令官のハモンド少将に迎えられ、二人そろってクッタバル記念碑と、基地内の歴史館に保存・陳列されている潜航艇の前でそれぞれ献花をしました。



クッタバル記念碑での献花



潜航艇の前での献花

彼らの貴重な犠牲の上に、現在の平和と繁栄が築かれてきたことに思いをいたし、感謝の念を伝え、深く頭を垂れました。何よりも嬉しかったのは、クッタバル艇が沈没して落命した豪州人兵士だけでなく、今なお水底に眠る2名を含めた日本の軍人への配慮が随所に溢れていたことです。大人二人が入るにはとても狭すぎる特殊潜航艇の船内を案内しつつ、日本軍人のプロフェッショナリズムと勇敢ぶりをたたえる声を聞いたとき、英霊の献身があってこそ現在の日豪関係があると改めて強く認識しました。

近年、日豪間の安全保障協力が進み、シドニー湾を初めとする豪州への海上自衛隊艦船の寄港が日常化し、共同訓練、共同巡航まで行われるに至った現状を見るにつけ、感慨ひとしおのものがあります。大使館としても、身を粉にしてさらに貢献していきたいと思います。

山上信吾